

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

①第三者評価機関名

（社福）茨城県社会福祉協議会

②施設・事業所情報

名称：石下保育園		種別：保育所
代表者氏名：理事長 中嶋 和子		定員（利用人数）： 90名（110名）
所在地：常総市新石下 1031		
TEL：0297-42-2300	ホームページ： http://ishige-kids.com/hoikuen/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和 27 年 4 月 1 日		
経営法人・設置法人（法人名等）：（社福）寿広福祉会		
職員数	常勤職員 16 名	非常勤職員 2 名
専門職員	保育士 16 名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	・保育室 7 室	・遊具
	・給食（調理）室 1 室	
	・子育て支援スペース（保育室共有）	
	・一時預かり室 1 室	

③理念・基本方針

<p>保育園では、子どもたちがお互いの違いを認め合い、社会でたくましく生き抜く力を育むことができるようにと、仏教の精神である「共生（ともいき）」を保育理念としている。</p> <p>保育方針に「子どもや保護者一人ひとりの心に添う保育」を掲げ、個々の発達を理解して、遊びや生活に基づいた具体的な体験から豊かな人間性と生きる力を培うようにしている。</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>延長保育や一時預かり、乳児保育（生後 6 ヶ月から）、地域子育て支援、学童保育（小学校低学年）など、多種多様な地域の保育ニーズに対応している。</p> <p>異年齢保育に力をいれ、ホールで一緒に昼食を摂ったり、散歩と一緒に出かけることにより、共に育ち合うことができるようにしている。</p> <p>一日の流れも、子どもの主体性を一番に考慮し、「今日は何をしてみたいのか」を当番の子どもを中心に話し合いを行って決め、リーダーシップを発揮する年長児を中心として縦のつながりを図っている。</p> <p>保育園の近くの畑で作物を作り、子ども達が畑作業に参加したり、収穫を楽しんだりして食育にも役立てている。野菜を育てる喜びや勤労の尊さを学び、自然の恵みに感謝の気持ちが持てるような保育環境を設定している。</p>
--

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 25 年 6 月 14 日（契約日）～ 平成 27 年 3 月 31 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

・施設運営について

延長保育や一時預かり、乳児保育（生後 6 ヶ月から）、地域子育て支援、学童保育（小学校低学年）など、多種多様な地域の保育ニーズに対応している。

職員研修については園長が研修の該当者を指名する他、職員が希望する研修を申し出て研修に参加している。

ホームページを活用して園の概要や事業、行事、保育園の申込、子ども達のアルバムの情報を提供している。

・サービス提供について

異年齢保育に力をいれ、ホールで一緒に昼食を摂ったり、散歩に一緒に出かけることにより、共に育ち合うことができるようにしている。

一日の流れも、子どもの主体性を一番に考慮し、「今日はどんなことをしたいのか」を当番の子どもを中心に話し合いを行って決め、リーダーシップを発揮する年長児を中心として縦のつながりを図っている。

保育士は見守る保育を基本に「大きな声を発しない」や「否定語を使わない」ように努め、子どもから何をやりたいといった自主的な言葉や態度を引き出すよう努めている。

保育園の近くの畑で作物を作り、子ども達が畑作業に参加したり、収穫を楽しんだりして食育にも役立てている。

給食の献立表の配布の他に、本日の給食として見本を展示することで、保護者と子どもとの話題づくりに役立てている。

外部講師によるリトミック、英語遊びや体育遊びを取り入れている。

◇改善を求められる点

・施設運営について

異年齢保育に力を入れているが、年齢別保育計画月案や日案の中に異年齢保育についても記載することを期待します。

管理者は職員を信頼し、気づきを期待していると思われるが、報告・連絡・相談・反省の作業を明確に周知することを期待します。

保護者アンケートで園庭の入口の施錠について「開放的で良い」との意見と「外部の人間がいつでも誰でも入られる状態であり不安視する」との意見も出されており、園の方針として開放しておくのであれば、方針を保護者に説明して理解を得ることを期待します。

理念や保育目標などの周知を保育士にはしているが、保護者にも周知を図り、共通理解がなされることを期待します。

・サービス提供について

目標を実践して反省や評価を行うためにも、会議や話し合いの時間を十分確保し、共通理解を図る工夫を検討することを期待します。

園便りやクラスたより、連絡帳で保護者に日常の保育園での様子がわかるように情報を発信はしているが、年少児に比べて「日中の様子が分からない」や「給食の食べ具合を知りたい」などの意見が保護者から出されているので、より一層保護者と保育士とのコミュニケーションを密にすることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育園の役割は、日常生活の指導・支援から教育まで多岐にわたるうえ、家庭や地域と連携した取り組みも求められています。また、地域の子育て支援拠点としての機能も果たす必要があります。

そしてこれらの役割を支える施設の運営や管理、職員の人材育成、危機管理体制もしっかり構築しなければなりません。幅広い視点で施設を運営していく訳ですが、現実にはどうしても目の前にある日常業務に目を奪われがちになってしまいます。

そのため、第三者の視点で客観的に運営内容を評価してもらう必要があると思います。

実際に評価を受けてみると、管理運営全般から様々な課題がみえてきました。

適切な管理運営内容の点検ができます。自己評価だけではこれだけの点検はできないでしょう。

今回の評価結果を真摯に受け止め、次回の受審までには、計画的に施設の管理運営内容を修正・改善し、保育環境をよりよい方向に整え、保護者や地域の方々に信頼して頂けるよう努力していきたいと考えております。また、情報を開示することで、安心と信頼を深めることができると思います。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）